

年間授業計画【新様式】

高等学校令和6年度（3・4学年用）教科国語 科目 国語演習
教科：国語 科目：国語演習 単位数：2 単位

対象学年組：第 3・4 学年

教科担当者：大久保 美由紀

使用教科書：「国語表現」（大修館書店）

教科 国語 の目標：

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 国語演習 の目標：

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			語 ・ 聞	書	読					
1 学 期	・敬語についての正しい理解 ・話し言葉と書き言葉の違い ・和語・漢語・外来語 ・言葉と表記、係り受け、文末表現の統一、接続表現の使い方などを意識し、より適切な表現になるように吟味する。 ・原稿用紙の使い方を理解する。	1 言葉と出会う ・整った文を書く ・相手に応じた言葉遣い ・わかりやすい文を書く ・文のつなぎ方		○	○	【知識・技能】 ・書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や手段に応じた適切でわかりやすい文を書く方法を理解している。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、長すぎる文やあいまいな文を避け、読点を適切に用いるなど、工夫している。〔B (1)オ〕 ・「書くこと」において、自分が書いた文や文章が、読み手にわかりやすく伝わるかどうかを吟味し、表現全体を整えたり、読点の打ち方を工夫したりしている。〔B (1)カ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・練習問題を解くことで、わかりやすい文にする学習に積極的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	・聞くこと・話すこと、伝え合うことを見つめ直し、コミュニケーションに対する意識をもつ。 ・コミュニケーションの楽しさを知り、積極的にコミュニケーションに取り組む姿勢をもつ。	2 伝える、伝え合う ・自己紹介ゲーム ・言葉のストレッチ体操		○	○	【知識・技能】 ・話し言葉や非言語的表現の特徴と役割について理解を深め、目的や場面に応じた適切な表現を理解している。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応に応じて言葉を選び、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。〔A (1)エ〕 ・「話すこと・聞くこと」において、視点を明確にして聞きながら、共感を伝えたり相手の思いや考えを引き出したりしている。〔A (1)カ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・伝え合うことの楽しさを知り、積極的にコミュニケーションに取り組もうとしている。	○	○	○	2
	中間考査			○	○		○	○		1
	・小論文の基本的な書き方を理解する。 ・意見を筋道を立てて書く。 ・原稿用紙の使い方や推敲の観点を理解する。	3 小論文・レポート入門 レッスン1 小論文とは何か		○	○	【知識・技能】 ・小論文の特徴、構成や展開のしかたなどについて理解を深めている。〔(1)エ〕 【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いて論理の展開を考えるなど、文章の構成や展開を工夫している。〔B (1)イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・小論文と感想文の違いをふまえ、小論文を書くことに関心をもち、意欲的に取り組もうとしている。	○	○	○	4

	・反論を想定して小論文を書くことの意味を理解する。 ・反論を想定して書く構成を理解し、それに沿って小論文を書く。	レッスン2 反論を想定して書く			【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、説得力のある理由を吟味して、伝えたいことを明確にしている。〔B(1)ア〕 ・「書くこと」において、読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、反論などを想定して論理の展開を考えるなど、文章の構成や展開を工夫している。〔B(1)イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・反論を想定し、説得力を高めた小論文を書くことに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。				6
	期末考査								1
	・文章の要旨をつかむための方法を理解する。 ・資料に対する自分の意見を明確にして小論文を書く。	レッスン3 文章を読み取って書く 【表現への扉】「再生」は日常生活から／時代の気分、言葉の温度／藤井新棋聖			【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、読み取った文章の要旨から適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。〔B(1)ア〕 ・「書くこと」において、読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫している。〔B(1)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・文章から読み取ったことをふまえて小論文を書くことに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。				8
	・統計資料から読み取ったことをふまえて論点を整理する。 ・統計資料から読み取ったことをふまえて小論文を書く。	レッスン4 統計資料を読み取って書く 【表現への扉】データを読む③／データを読む④			【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、読み取った統計資料から適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。〔B(1)ア〕 ・「書くこと」において、自分の考えを明確にし、根拠となる情報をもとに的確に説明するなど、表現のしかたを工夫している。〔B(1)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・統計資料から読み取れることをもとに小論文を書く活動に興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。・統計資料から読み取ったことをふまえて論点を整理する。 ・統計資料から読み取ったことをふまえて小論文を書く。				6
	中間考査								1
2 学 期	・発想を広げるための方法を理解する。 ・テーマをもとに発想を広げて小論文を書く。	レッスン5 発想を広げて書く			【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて発想を広げるための方法を理解し、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。〔B(1)ア〕 ・「書くこと」において、読み手の同意が得られるよう、発想を広げたことをふまえて、適切な根拠を効果的に用いるとともに、反論などを想定して論理の展開を考えるなど、文章の構成や展開を工夫している。〔B(1)イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・与えられたテーマから発想を広げて小論文を書く活動に興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。				10
	・経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。 ・他者の意見を聞いて、自分の長所を見つける。 ・自分の長所を端的に表現し、印象に残る自己PRの原稿を書く。 ・事実やできごとをふまえて、効果的な自己PRをする。	4 自己PRと面接 レッスン1 自分を見つめて レッスン2 効果的な自己PR			【思考・判断・表現】 ・言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場に応じて、自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者と話し合いながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。〔A(1)ア〕 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫している。〔A(1)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・効果的な自己PRをすることに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。				12
	期末考査								1

[illegible]